

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300194	事業の開始年月日	平成23年12月1日	
		指定年月日	平成23年12月2日	
法人名	株式会社 日本アメリティライフ協会			
事業所名	花物語たかつ新館			
所在地	(〒213-0031) 神奈川県川崎市高津区宇奈根637-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成28年12月13日	評価結果 市町村受理日	平成29年4月14日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様がその方らしく穏やかに、また生き活きと笑顔で暮らせるよう、職員皆、ご入居者様やご家族様に対して寄り添いの気持ちを忘れず笑顔で楽しく勤めています。

現在、ほぼ毎朝職員と共に館外へ散歩に出かけています。身体機能の維持・向上という課題もあったことから外出支援の一環として行なっています。散歩を毎日行うことで外出する楽しみができ下半身の筋力低下を防止できています。

もうひとつ継続で行なっていることは定期的な外出行事です。ご入居者様に事前に外出先の希望を伺い、実際に行くことで外出に対する参加意欲も高くなっています。職員・ご入居者様共に楽しみつつ参加出来ています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年1月18日	評価機関 評価決定日	平成29年3月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR南武線「久地駅」より徒歩12分、大通りから少し入った静かな場所にあります。3階建ての建物で1階が小規模多機能型居宅介護事業所、2～3階が2ユニットのグループホームです。事業所のあるエリアは同法人の他のグループホームや協力医療機関、薬局、老人ホームなど、同じオーナーの大きな敷地内にあり、通称「メディカルビレッジ」と称しています。

<優れている点>
経験豊富な管理者を中心にチームワークに徹しています。医療機関や高齢者ホームの経験を経たスタッフを擁し、職員は常に笑顔をモットーに理念の実践に努めています。利用者の外出を兼ねたレクリエーションに積極的に取り組んでいます。事業所周辺の公園や多摩川などの散歩コースのほかに、法人のバスを利用し都内の神宮の森や水族館、横浜のみなとみらいやマリントワー、川崎大師など四季を通し、車椅子の利用者はもとより、利用者の家族も共に楽しむ機会を作っています。

<工夫点>
厨房はオープンキッチンで食堂兼リビングのほか、厨房からは廊下に備えたミラーにより利用者全体の見守りが容易に出来るよう工夫しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	花物語たかつ新館
ユニット名	2階 大地

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	『生き活きと暮らそう』を理念とし、ご入居者様がその方らしく安心して生活できるよう、勤めています。職員も楽しく、笑顔を忘れず仕事をするよう心がけています。	開設時の理念を見直し、職員全員で作り上げた独自の理念です。入職時に周知し、玄関や事務所にも掲げ、職員で共有しています。職員は常に笑顔をモットーに理念の実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の納涼祭・例大祭への参加をしている他、ご入居者様が散歩中、近隣の方々と挨拶をすることにより顔なじみになりお声をかけていただくこともあります。	自治会に加入し、地域の行事などの情報を得ています。地元の盆踊りや神社の例大祭にも参加し、地域と交流しています。地域の防災訓練に参加しています。事業所のエリアで行う合同の夏祭りには地域の子ども達と交流しています。	運営推進会議のメンバーや社会福祉議会などを通してボランティアの導入を図ることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご入居者様と近隣の方々との挨拶や近所への買い物時に会話を通じて、認知症の方への理解をしていただいています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の内容・ご意見等を、リーダー会議やフロア会議で施設長から報告し施設内のサービス向上に繋がるよう話し合いをし、実践しています。	年6回開催しています。主なメンバーは町内会長や地域包括支援センター職員、オーナー、利用者、家族です。事業所の活動報告のほか、地域の情報交換や利用者、家族との意見交換をしています。新たな外出先、イベントなどの要望は運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者と情報交換やアドバイスを受けてたりご入居者様の認定調査等、様々な場面において連携を取り協力関係を構築しています。	運営推進会議の報告や認定更新時など行政と連携をとっています。県のグループホーム連絡会の役員をしています。市のグループホーム連絡会に参加し、相互の情報交換をしています。市の紹介で体験学習生の受入れをしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止についての研修を行い、どのような行為が虐待にあたるかを学び日頃のケアに活かしています。フロアの扉は防犯上の理由から、施錠していますが、外出希望者についてはいつでも開けるようにしています。また職員へは施錠が拘束にあたることも周知し、止む無く行なっていることも研修の中で伝えていきます。	法人及び内部の研修やマニュアルで、拘束の弊害については周知徹底しています。職員はアンケートによる自己チェックをしています。不適切な言葉掛けがあれば都度注意しています。玄関やフロア入り口のドアは保安上施錠をしていますが、利用者が外出の際は同行見守りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に関する研修を行い、どのような行為が虐待にあたるかを学んでいます。ご入居者様に対する言葉遣い、態度に気をつけ、常に利用者への対応について会議や日々の申し送り等で話し合い、改善出来る体制となっております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を行い、その際に得た資料や情報を職員間で共有しております。現在成年後見制度をご利用されている方はいらっしゃいませんが、研修等を通して職員への周知をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族様からの契約に関する質問については、ご入居者様やご家族様の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行いわかりやすく説明して理解・納得をしていただきご利用開始いただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時にご家族との意見交換を行い、意見・要望について、実現に向けた話し合いを職員間で行い運営に反映しています。	意見箱が備わっています。利用者や家族の意見や要望は運営推進会議や日頃の面会時に聞いています。新たな外出の機会や新しいイベントの導入などの意見や要望があり、運営に活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議やリーダー会議、各委員会において、職員同士が互いに意見を出し合い、集約して実践することで運営に反映しています。	フロア会議やリーダー会議で職員の要望や意見を聞く機会を作っています。安全や環境、行事・研修など各種の委員会を作り、意見を聞いています。物品の購入や行事、イベントの企画、利用者の個別ケアの内容などの意見や提案を運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長・フロアリーダーが職員と面談を行い職員の意見を聞き、必要時は就業環境の面において改善を行い、職員が意欲的に就労できるようにしている他、各種研修を行なうことで自信を持って業務にあたる事ができています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内外の研修や講習会の案内を休憩室に掲示する他、研修委員より職員に対し、研修参加を促すなど研修を受ける機会を確保しています。また、法人としては新人研修等を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外の研修に参加し、他施設の職員と、相互の施設サービスについて情報交換を行い、サービスの質の向上が出来る様に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時アセスメント・ケアプランを把握し会話を重ね安心して過ごしていただけるようし、ご入居者様のご要望がある場合可能な限り実現出来るよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご自宅でのご入居者様の生活の仕方や趣味をお聞きする等し、不安・要望など会話を重ねるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご入居者様が現在必要としている支援内容をアセスメントや生活上のご様子から見極め、必要時はサービス内容の変更を話し合い、実践しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な範囲内でご入居者様には家事に参加していただき、ご入居者様と職員が相互に協力しあう関係が作れています。常に人生の先輩であるという思いを忘れず、寄り添いの気持ちで過ごしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にご入居者様の日々の様子や要望等を少しでも時間を作り、話をしています。行事の写真などを月一度ご家族様に郵送し、家族の繋がりを大切にさせていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご入居者様が行ってみたい場所などは外出行事で出かけたりしています。また近所のお店やお散歩コースも馴染みの場所となっています。家族やお友達などの面会も大事な時間としてゆっくり過ごしていただいています。	友人や知人の訪問があり、居室で湯茶の接待をしています。墓参りや一時外泊、買い物、馴染みの医者など家族の協力で継続の支援をしています。絵や習字、音楽の趣味、梅干しなどの嗜好も継続するよう支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者様の多くが参加出来る内容の会話を行う他、家事のお手伝いを通してご入居者様同士が協力して支え合い・助け合って生活できるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院先へのお見舞いや退院後も転居先へ面会の行く他、ご家族様に連絡を取り近況報告を聞くなどご本人との間に作られた関係が途切れないようにしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活上の意向を聞くようにしています。その意向を職員間で話し合い、利用者が満足できるよう検討し実践しています。	アセスメントの際に思いや意向を引き出すようにしています。日頃、思いや意向を把握した時はフロア会議などで共有し、プランに反映しています。意思表示の困難な利用者は態度や表情、素振りなどのサインを見逃さないようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前に本人の情報を得ている他、アセスメント表を熟読しこれまでの生活歴を把握しています。生活上の様子は個人記録に記入しサービス開始から現在までの経過が分かるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご入居者様の日々の様子を個人記録に残し、必要時は申し送りや朝礼時に話しフロア職員や施設長、医療連携看護師が把握出来るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	フロア会議やご入居者様に関するモニタリングの際利用者の個人ケアに関する情報を共有し意見交換をした上で現状に即した介護計画を作成し支援を行っています。	モニタリングは3ヶ月ごとに実施しています。モニタリングや担当者会議を経て計画書を作成しています。計画書の作成に当たっては職員や計画担当者、管理者が参加しています。計画書には利用者や家族の要望や意見、医療情報が反映されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録や申し送りに記録し、フロア会議や朝礼を通し職員間で情報を共有し介護計画の見直しが必要な際には都度活かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご入居者様のADLの変化等により他サービスの利用が必要な際はカンファレンスを行い本人の状態に適した対応を行うようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	森林公園やバラ苑といった地域の施設を利用する他、近隣の祭りへの参加、ご近所の方との会話、買い物等楽しんで生活を送ることができています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の内科往診の他、特変がある場合、医院や家族に連絡を取り受診に繋げるといった連携をとり、適切な医療を受けられる体制が構築されています。	一部利用者を除いて事業所協力医に切り替えています。内科医の往診は月2回、眼科や整形外科などは外来で、原則家族対応です。看護師は週4回健康管理をしています。かかりつけ医は24時間オンコールです。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申し送りや個人記録を確認し医療連携看護師との情報共有を常に行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にご入居者様の面会を頻繁に行い、病院関係者や家族とも相談しながら早期な退院に備えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、或いは終末期に向けた方針については入所前の段階で家族に説明し、了承していただいています。また、常日頃からそのような話題もご家族と十分に話し合うようにしています。	契約時に重度化や終末期の方針を説明をしています。看取りに際しては医師の判断もとに家族の協力が前提となっています。看取りになった場合は、医師や看護師、家族、事業所と連携を図り、看取り介護計画書を作成し、家族の同意のもと実施します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ご入居者様が急変した際のマニュアルがフロアに設置しており、それに基づいた対応が出来ます。また急変時の対応に関する研修も行われており職員の対応能力も向上しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行い災害時の避難誘導が円滑に進められるようにしています。近隣に同じ法人の施設があり、協力体制ができています。また、運営推進会議でも話し合い、地域との協力体制にも繋がっています。	年2回総合防災訓練で夜間を想定した訓練など消防署と共に実施しています。近隣や小学校の防災訓練に参加し協力体制を築いています。3日分の備蓄や防火扉、消防設備の定期点検を実施しています。現在、水害対策について消防署と取り組み中です。	高齢者施設では地域の協力が必須です。日頃から地域の交流や事業所からの情報発信、訓練時には近隣へ知らせたり、地域の防災担当者との関係づくりなど、地道な取り組みが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの尊厳を尊重し居室に入る際は必ずノックをし、トイレに入った際は必ずドアを閉める等といったプライバシーにも配慮し常に言葉使いや態度に気をつけて対応を行っています。	年1回の新人研修で、利用者の尊厳と権利を守ること、基本的な心構えなど、職員の行動指針を学んでいます。言葉遣いやさりげなく向き合う姿勢など日常介護で実践しています。家族と利用者の権利、秘密保持の説明、個人情報使用同意書を取り交わし、情報管理をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	着替え時の洋服の選択、買い物時にどの品物を買うか、必ずご入居者様に自己決定をしていただく機会を作ってます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご入居者様のその日毎の生活ペースを尊重し、どのように過ごすか利用者の意向に沿った対応を日々行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪やひげの手入れ、洋服の選択は自身で行っていただき、より良くおしゃれが出来るよう必要時は声かけを行うようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き・食器洗い・盛り付け等を利用者に手伝って頂いています。職員は食事前には各料理の説明を行うなど、食事が楽しみの一つとなるよう支援しています。	食材と献立は外部に委託し、厨房では利用者の食事形態に合わせて調理し提供しています。利用者は職員と一緒に買物に出かけ、おやつを作ることもあります。馴染みの箸や食器を使い、職員と会話を楽しみながら食事をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合った調理法で提供している。食事・水分摂取量を個人記録に残し、どの程度摂取できているかを常に把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自身で行える方は行っていただき、支援が必要な方は職員が付き添い、介助して口腔ケアを行っています。義歯を装着されている方は夜間帯にポリドントを使用し除菌しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄内容を個人記録に記入し、排泄の間隔が開いている方に対しては声かけをしご本人の同意後に誘導を行っています。また、排泄の際ご自分で行えることは行っていただいています。	ほとんどの人が自立です。一人ひとりの排泄状況を確認し、尿・便意の不確実な人は定時や行動を見て、耳元で声掛けしさりげなくトイレに誘導しています。失禁時も他人に気づかれず、手早く交換し、不快なく過ごすよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を十分摂取していただき散歩や体操を通して運動を行うようにしています。便秘の方に関しては起床時に白湯を提供しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の間隔は長くても3日以上開かないようご入居者様に入浴を勧める声かけを行っています。入浴希望の有無を尊重し、入浴時間の変更等、臨機応変な対応が行えています。また体調不良など入浴が困難な場合は足浴・清拭で対応しています。	入浴は原則週2回ですが、回数や時間などの希望には柔軟に対応しています。入浴の嫌いな利用者には声掛けの工夫や時間を変えたりして促しています。季節のゆず湯や菖蒲湯などを楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご入居者様の希望に応じて居室でお休みになる他、フロアのソファに座って寛いで頂いています。散歩やレクリエーション等の実施により日中は活動的に過ごし夜間は安眠できる環境作りができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時、職員2名体制による誤薬防止チェックを行なっている他、フロアに処方箋リストを設置し、いつでも職員が薬の内容を確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物たたみや食器洗い、掃除等多くの日常家事を皆さんと楽しみながら行っていただいています。また外出レクリエーションや散歩を通して利用者様に気分転換をしていただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩・買い物は日課としています。月1・2回程度外出行事を企画し実行しています。普段なかなかいけない場所へ行きご入居者様とご家族様から喜ばれています。	朝食後、フロアごとに、車椅子の人も全員近隣を散歩し、地域の人々との交流や健康維持を支援しています。月1回、法人の大型車で水族館、動物園、植物園など希望の場所に遠出の外出をしています。家族の協力で墓参り、食事会など個別の外出を支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の際、職員が代金をご入居者様のお渡しし、ご自身で料金を支払っていただくようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご入居者様のご要望がある際はご家族への電話をかける支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	週1回、玄関やフロアに花を活け季節感を出しています。フロアの壁にはイベントのポスターや写真を貼ったりしている等、ご入居者様が楽しんで暮らせる環境作りをしています。	厨房はオープンキッチンで、食堂兼リビングは明るく、清潔な共用空間です。テーブルや椅子はゆったりと配し、ソファとテレビを備え、いつでもくつろぐことができます。随所に生花や美しい造花が飾られ、事業所の特色がうかがえます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご入居者様が自由に会話でき、好きな時に居室にておやすみになることができる等、ご入居者様が過ごしやすい環境作りをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居者様が使い慣れた物や家族の写真を置き、ご入居者様にとって居心地よい空間作りをしています。	ベッドやエアコン、照明、クローゼット、洗面台などが備わっていて、他は持ち込み自由です。タンスやテレビ、鏡、写真、時計、ぬいぐるみ、仏壇、神棚など馴染の家具や調度品を揃え、居心地よく過ごせる居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご入居者様の生活の妨げとならないかを念頭に環境整備を考えています。また、家事のお手伝いをしていただく等、出来るだけ自立した生活が送れるようにしています。		

事業所名	花物語たかつ新館
ユニット名	3階 青空

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	『生き活きと暮らそう』を理念とし、ご入居者様がその方らしく安心して生活できるよう、勤めています。職員も楽しく、笑顔を忘れず仕事をするよう心がけています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の納涼祭・例大祭への参加をしている他、ご入居者様が散歩中、近隣の方々と挨拶をすることにより顔なじみになりお声をかけていただくこともあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご入居者様と近隣の方々との挨拶や近所への買い物時に会話を通じて、認知症への方への理解をしていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の内容・ご意見等を、リーダー会議やフロア会議で施設長から報告し施設内のサービス向上に繋がるよう話し合いをし、実践しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者と情報交換やアドバイスを受けてたりご入居者様の認定調査等、様々な場面において連携を取り協力関係を構築しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止についての研修を行い、どのような行為が虐待にあたるかを学び日頃のケアに活かしています。フロアの扉は防犯上の理由から、施錠していますが、外出希望者についてはいつでも開けるようにしています。また職員へは施錠が拘束にあたることも周知し、止む無く行なっていることも研修の中で伝えていきます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に関する研修を行い、どのような行為が虐待にあたるかを学んでいます。ご入居者様に対する言葉遣い、態度に気をつけ、常に利用者への対応について会議や日々の申し送り等で話し合い、改善出来る体制となっております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を行い、その際に得た資料や情報を職員間で共有しております。現在成年後見制度をご利用されている方はいらっしゃいませんが、研修等を通して職員への周知をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族様からの契約に関する質問については、ご入居者様やご家族様の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行いわかりやすく説明して理解・納得をしていただきご利用開始いただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時にご家族との意見交換を行い、意見・要望について、実現に向けた話し合いを職員間で行い運営に反映しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議やリーダー会議、各委員会において、職員同士が互いに意見を出し合い、集約して実践することで運営に反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長・フロアリーダーが職員と面談を行い職員の意見を聞き、必要時は就業環境の面において改善を行い、職員が意欲的に就労できるようにしている他、各種研修を行なうことで自信を持って業務にあたる事ができています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内外の研修や講習会の案内を休憩室に掲示する他、研修委員より職員に対し、研修参加を促すなど研修を受ける機会を確保しています。また、法人としては新人研修等を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外の研修に参加し、他施設の職員と、相互の施設サービスについて情報交換を行い、サービスの質の向上が出来る様に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時アセスメント・ケアプランを把握し会話を重ね安心して過ごしていただけるようし、ご入居者様のご要望がある場合可能な限り実現出来るよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご自宅でのご入居者様の生活の仕方や趣味をお聞きする等し、不安・要望など会話を重ねるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご入居者様が現在必要としている支援内容をアセスメントや生活上のご様子から見極め、必要時はサービス内容の変更を話し合い、実践しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な範囲内でご入居者様には家事に参加していただき、ご入居者様と職員が相互に協力しあう関係が作れています。常に人生の先輩であるという思いを忘れず尊い、寄り添いの気持ちで過ごしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にご入居者様の日々の様子や要望等を少しでも時間を作り、話をしています。行事の写真などを月一度ご家族様に郵送し、家族の繋がりを大切にさせていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご入居者様が行ってみたい場所などは外出行事で出かけたりにしています。また近所のお店やお散歩コースも馴染みの場所となっています。家族やお友達などの面会も大事な時間としてゆっくり過ごさせていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者様の多くが参加出来る内容の会話を行う他、家事のお手伝いを通してご入居者様同士が協力して支え合い・助け合って生活できるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院先へのお見舞いや退院後も転居先へ面会の行く他、ご家族様に連絡を取り近況報告を聞くなどご本人との間に作られた関係が途切れないようにしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活上の意向を聞くようにしています。その意向を職員間で話し合い、利用者が満足できるよう検討し実践しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前に本人の情報を得ている他、アセスメント表を熟読しこれまでの生活歴を把握しています。生活上の様子は個人記録に記入しサービス開始から現在までの経過が分かるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご入居者様の日々の様子を個人記録に残し、必要時は申し送りや朝礼時に話しフロア職員や施設長、医療連携看護師が把握出来るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	フロア会議やご入居者様に関するモニタリングの際利用者の個人ケアに関する情報を共有し意見交換をした上で現状に即した介護計画を作成し支援を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録や申し送りに記録し、フロア会議や朝礼を通し職員間で情報を共有し介護計画の見直しが必要な際には都度活かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご入居者様のADLの変化等により他サービスの利用が必要な際はカンファレンスを行い本人の状態に適した対応を行うようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	森林公園やバラ苑といった地域の施設を利用する他、近隣の祭りへの参加、ご近所の方との会話、買い物等楽しんで生活を送ることができています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の内科往診の他、特変がある場合、医院や家族に連絡を取り受診に繋げるといった連携をとり、適切な医療を受けられる体制が構築されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申し送りや個人記録を確認し医療連携看護師との情報共有を常に行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご入居者様の面会を頻繁に行い、病院関係者や家族とも相談しながら早期な退院に備えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、或いは終末期に向けた方針については入所前の段階で家族に説明し、了承していただいています。また、常日頃からその様な話題もご家族と十分に話し合うようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ご入居者様が急変した際のマニュアルがフロアに設置しており、それに基づいた対応が出来ます。また急変時の対応に関する研修も行われており職員の対応能力も向上しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行い災害時の避難誘導が円滑に進められるようにしています。近隣に同じ法人の施設があり、協力体制ができています。また、運営推進会議でも話し合い、地域との協力体制にも繋げています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの尊厳を尊重し居室に入 際は必ずノックをし、トイレに入っ 際は必ずドアを閉める等といったプ ライバシーにも配慮し常に言葉使いや 態度に気をつけて対応を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている。	着替え時の洋服の選択、買い物時にど の品物を買うか、必ずご入居者様に自 己決定をしていただく機会を作ってま す。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をど のように過ごしたいか、希望にそって支援してい る。	ご入居者様のその日毎の生活ペースを 尊重し、どのように過ごすか利用者 の意向に沿った対応を日々行ってい ます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している。	髪やひげの手入れ、洋服の選択は自身 で行っていただき、より良くおしゃれ が出来るよう必要時は声かけを行うよ うにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒 に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き・食器洗い・盛り付け等 を利用者に手伝って頂いています。職 員は食事前には各料理の説明を行うな ど、食事が楽しみの一つとなるよう支 援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合った調理法で提供している。食事・水分摂取量を個人記録に残し、どの程度摂取できているかを常に把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自身で行える方は行っていただき、支援が必要な方は職員が付き添い、介助して口腔ケアを行っています。義歯を装着されている方は夜間帯にポリデントを使用し除菌しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄内容を個人記録に記入し、排泄の間隔が開いている方に対しては声かけをしご本人の同意後に誘導を行っています。また、排泄の際ご自分で行えることは行っていただいています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を十分摂取していただき散歩や体操を通して運動を行うようにしています。便秘の方に関しては起床時に白湯を提供しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の間隔は長くても3日以上開かないようご入居者様に入浴を勧める声かけを行っています。入浴希望の有無を尊重し、入浴時間の変更等、臨機応変な対応が行えています。また体調不良など入浴が困難な場合は足浴・清拭で対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご入居者様の希望に応じて居室でお休みになる他、フロアのソファに座って寛いで頂いています。散歩やレクリエーション等の実施により日中は活動的に過ごし夜間は安眠できる環境作りができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時、職員2名体制による誤薬防止チェックを行なっている他、フロアに処方箋リストを設置し、いつでも職員が薬の内容を確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物たたみや食器洗い、掃除等多くの日常家事を皆さんと楽しみながら行っていただいています。また外出レクリエーションや散歩を通して利用者様に気分転換をしていただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩・買い物は日課としています。月1・2回程度外出行事を企画し実行しています。普段なかなかいけない場所へ行きご入居者様とご家族様から喜ばれています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の際、職員が代金をご入居者様のお渡しし、ご自身で料金を支払っていただくようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご入居者様のご要望がある際はご家族への電話をかける支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	週1回、玄関やフロアに花を活け季節感を出しています。フロアの壁にはイベントのポスターや写真を貼ったりしている等、ご入居者様が楽しんで暮らせる環境作りをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご入居者様が自由に会話でき、好きな時に居室にておやすみになることが出来る等、ご入居者様が過ごしやすい環境作りをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居者様が使い慣れた物や家族の写真を置き、ご入居者様にとって居心地よい空間作りをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご入居者様の生活の妨げとならないかを念頭に環境整備を考えています。また、家事のお手伝いをさせていただく等、出来るだけ自立した生活が送れるようにしています。		

平成28年度

目標達成計画

事業所名 花物語たかつ新館

作成日： 平成29年3月31日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	年に2回の消防訓練・災害訓練をしており、近隣住民への参加を募っているが参加して頂けていない現状がある。	消防訓練や災害訓練に地域住民の参加を増やし、災害時の実践的な訓練を行い非常災害時に備えたい。	消防訓練・災害訓練時に運営推進会議のメンバー含め、地域の消防団や地域住民への声かけをし、参加を促す。	12ヶ月
2	35	地域との関わりについては年間行事を通じて定期的に関わりを持つ事ができるようになってきており毎日の散歩の際に声をかけていただく事も増えたが、さらなる積極的な地域交流を目指したい。	日常的に他者と関わりを持つ機会を増やし充実した生活、社会性の維持を目指したい。	定期的かつ長期的なボランティアの活用と導入ができるようボランティアセンターへの登録、地域の老人会との関係作りの構築など地道な取り組みをしていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月